

愛媛県・東洋のマチュ ピチュ「マイントピア^{とうなる}東平」ゾーン

～別子銅山 天空の産業遺産～

日本不動産研究所 松山支所
不動産鑑定士 亀田 武志

世界遺産のペルー「インカ帝国の遺跡」本家マチュ・ピチュにはかなわないが、四国は新居浜市の奥座敷、石鎚山系の中腹標高750mに、明治・大正・昭和にかけピーク時3,800人もの人々が暮らしていた町があったことをご存じだろうか？日本では明治5年に初めて新橋－横浜間を蒸気機関車が走ったのだが、明治26年に日本初の山岳鉱山鉄道「別子1号」としてこの場所でも坊っちゃん列車のような汽車が山あいを走っていた。まさに「天空の町」といわんばかりに別子銅山で働く銅山関係者とその家族が暮らし、採鉱施設を囲むように社宅群や病院、生協、小中学校、駐在所、郵便局、プール、無料浴場のほかに娯楽場があり、5月の山神祭時には上方歌舞伎が行われており、戦後は映画上映、楽団演奏会が開催されていた。

昭和43(68)年の東平抗休止により、当時の建物は全て取り壊され無人の地となった。その跡に植林し、今は自然に還って「森へ還る町」となっているが、大規模なものから森と化した中に残るわずかな痕跡まで大小様々な産業遺産が今でも数多く残っている。その代表的なもので東平のシンボリック的存在となっているのは、索道停車場跡（端出場(現在のマイントピア別子)とを結ぶ索道(リフト)で鉱石を積んで下ろし、その力で下から生活用品を上へ運んでいた主要な輸送機関である）と、貯蔵庫跡である。



「索道停車場跡」



「貯蔵庫跡」



「第三変電所跡」



「第三通洞」

ぜひ、皆さんも東洋のマチュ・ピチュ…東平を訪れ、それぞれの思いで天空の町を想い描いてほしい。

なお、東平へは新居浜市内中心部から国領川沿いを登り、鹿森ダムを越えて左折し、狭い道で対向車の離合待ちを気にしながら車で約40分掛かるが、十分な駐車場スペースと歴史資料館、マイン工房などが待ち受けてくれているので安心していただきたい。ただし大型バスは入れないので、マイントピア別子から東平まではマイクロバスでの輸送となる。